

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL. 025-234-6781
~6783



特集

- ① 畜産物と畜産に関するアンケート結果
- ② 「人」も「家畜」も暑い夏を乗り切る秘訣



「上越家畜市場」最後の子牛セリ市〔関連記事8ページ〕

目次

◆特集1

畜産物と畜産に関する消費者アンケート結果
..... (2)

◆平成30年度定時総会を開催 (4)

◆声のコーナー..... (5)

「子供たちと子牛」

酪農経営：新発田市宮古木 波多野隆子

「未知との遭遇」

養豚経営：村上市高根 相馬 はな

◆特集2

「人」も「家畜」も夏バテ防止！！
暑い夏を乗り切る秘訣

① ひと編「夏バテ予防の食生活」
新潟医療センター栄養科長 吉田 涼子… (6)

② 家畜編「家畜の暑熱対策について」
中央家畜保健衛生所次長 内山 保彦… (7)

◆畜産安心ブランド生産農場だより..... (8)
新潟市南区
(有) キープクリーン代表 小嶋 力也

◆「上越家畜市場」最後の子牛セリ市..... (8)

◆編集後記..... (8)

畜産物と畜産に関する消費者アンケート結果

当協会では、昨年10月22日「第19回協同組合まつり」（会場：新潟市産業振興センター）に出展しその会場において、ご来場のお客様（18歳以上）に「畜産物と畜産に関する消費者アンケート」を実施、116名の多くの方（すべて県内在住者）からご協力をいただきました。集計結果について概略をお知らせします。

アンケート協力者の性別と年代

当日は、メインのイベントで幼児・低学年児童向けキャラクターショーがあり、お客様は比較的若い家族づれが多く、アンケート回答者の7割以上が40代までの子育て世代が占めました。

（単位：人、％）

年代	計	女性	男性
20代以下	15 (12.9)	7	8
30代	47 (40.5)	37	10
40代	21 (18.1)	11	10
50代	15 (12.9)	13	2
60代	17 (14.7)	11	6
70代以上	1 (0.9)	1	-
計	116 (100)	80 (69)	36 (31.0)

（ ）内は、割合（％）

集計結果ピックアップ

① 畜産物を購入するときに気にかける点を聞いたところ、「新潟県産」と答えた人の割合

〔Q3、Q7、Q12〕

・牛乳26.7%、たまご23.3%、肉28.5%

◇一方「価格」と答えた人の割合

・牛乳31.9%、たまご43.1%、肉37.9%

② 新潟県は「豚肉消費」の県 〔Q8〕

好みの肉を聞いたところ「豚肉」と答えた人が全体で56.9%、60代以上では66.7%

③ 畜産物の「安全・安心」に大きな関心を示す 〔Q18〕

全体で「大いに関心がある」19.8%、「ある程度関心がある」45.7%、合せて65.5%

④ 「国内生産基盤の強化」が全体で62.9%

〔Q19〕

年代が上がるにつれその割合が高くなり、60代以上では77.8%が選択

◎「牛乳」に関する質問

Q1 牛乳は毎日のみますか？

A毎日飲む Bほぼ毎日飲む Cたまに飲む
Dほとんど飲まない E全く飲まない

全体	A+B 64名 (55.2%)	C39名 (33.6%)	D・E13名 (11.2%)
うち女性	A+B 47名 (58.8%)	C25名 (31.2%)	D・E8名 (10.0%)
うち男性	A+B 17名 (47.2%)	C14名 (38.9%)	D・E5名 (13.9%)
・年代別			
～30代	A+B 30名 (48.4%)	C24名 (38.7%)	D・E8名 (12.9%)
40～50代	A+B 23名 (63.9%)	C8名 (22.2%)	D・E5名 (13.9%)
60代～	A+B 11名 (61.1%)	C7名 (38.9%)	

Q2 牛乳はどこで買いますか？

A宅配 Bスーパー Cコンビニ D直売所

A21名 (18.1%)	B 94名 (81.0%)	C1名(0.9%)
・上記で「B（スーパー）」と回答した94名のうち「第2の購入先」		
A13名 (14.3%)	C 35名 (71.4%)	D13名 (14.3%)

Q3 牛乳を購入する時に気にかける点をお答えください。

A新潟県産 Bメーカー（ブランド）
C値段 D鮮度（消費期限）

A31名 (26.7%)	B30名 (25.9%)	C37名 (31.9%)	D18名 (15.5%)
・（うち女性のみを集計）			
A22名 (27.5%)	B21名 (26.2%)	C22名 (27.5%)	D15名 (18.8%)

◎「たまご」に関する質問

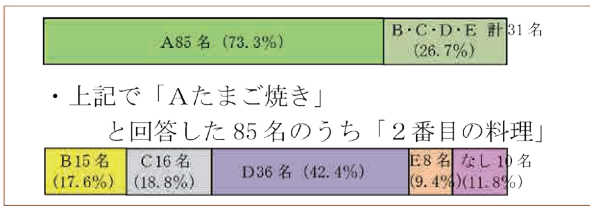
Q4 たまごを毎日食べますか？

A毎日食べる Bほぼ毎日食べる
Cたまに食べる Dほとんど食べない
Eまったく食べない

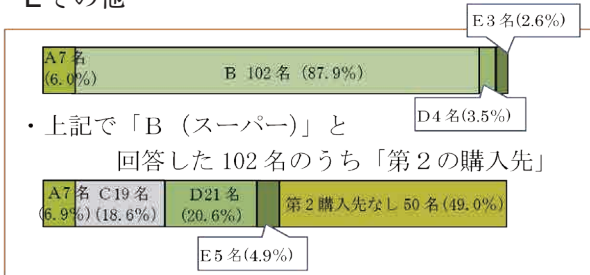
全体	A26名 (22.4%)	B51名 (44.0%)	C39名 (33.6%)
・年代別			
～30代	A10名 (16.1%)	B30名 (48.4%)	C22名 (35.5%)
40～50代	A13名 (36.1%)	B14名 (38.9%)	C9名 (25.0%)
60代～	A3名 (16.7%)	B7名 (38.9%)	C8名 (44.4%)

（注）各年代とも「D」と「E」に回答した者はなかった。

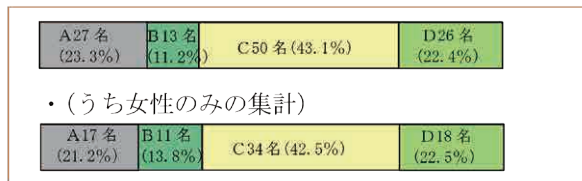
Q5 たまごはどのような料理で食べますか？
 Aたまご焼き Bオムレツ Cスクランブルエッグ
 Dゆでたまご Eご飯にかける



Q6 たまごはどこで買いますか？
 A宅配 Bスーパー Cコンビニ D直売所
 Eその他

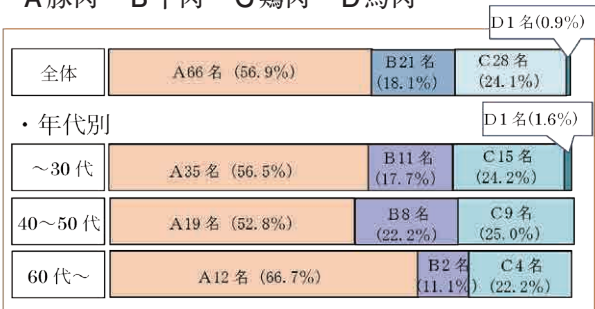


Q7 たまごを購入する時に気にかける点をお答えください。
 A新潟県産 B生産者(ブランド) C値段 D鮮度

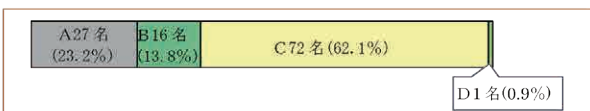


◎「お肉」に関する質問

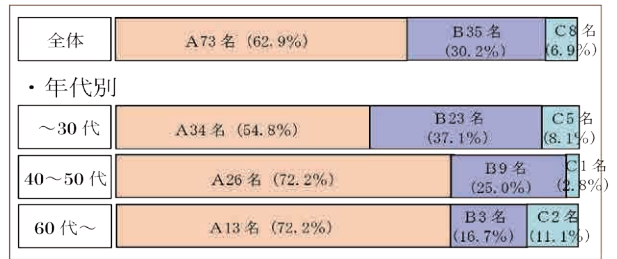
Q8 好みのお肉はどれですか？
 A豚肉 B牛肉 C鶏肉 D馬肉



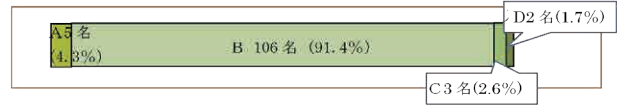
Q9 主に買われる肉はどれですか？
 A豚肉 B牛肉 C鶏肉 D馬肉



Q10 お肉の購入に当たり国産又は外国産を意識しますか？
 A意識する Bあまり意識しない
 C全く意識しない



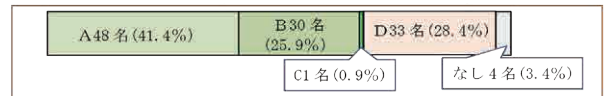
Q11 お肉はどこで買いますか？
 A宅配 Bスーパー C直売所 Dお肉屋



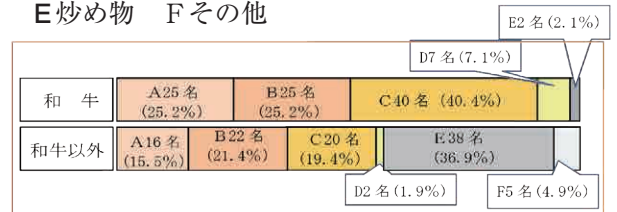
Q12 お肉の購入時に気にかける点をお答えください。
 A新潟県産 Bブランド C値段 D鮮度



Q13 主に購入される牛肉の種類はどれですか？
 A和牛 B交雑種 C乳用種 D外国産牛

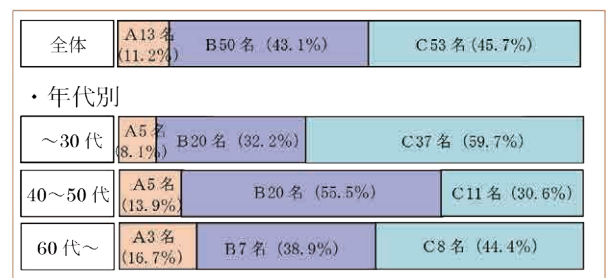


Q14 牛肉はどのように料理して食べますか？
 Aステーキ B焼肉 Cすき焼き Dしゃぶしゃぶ
 E炒め物 Fその他



◎畜産全般に関する質問

Q15 家畜のエサとなる配合飼料の原料は、海外からの輸入が約90%を占めている現状をご存じですか？
 Aよく知っている B聞いたことがある
 C知らない・わからない



平成30年度定時総会を開催

平成30年度定時総会を去る6月15日新潟市西区のJ A全農新潟県本部ビルで開催しました。総会の経過等を以下のとおり報告します。

1 議事の経過

・出席会員数

正会員63名中、本人出席16名、書面出席47名の全員出席により、平成30年度定時総会が成立した。

・会長挨拶

出席会員と来賓に謝意。上程する各議案に対し慎重審議をお願いし挨拶とした。

・新潟県農林水産部長祝辞（渡辺副部長代読）

当協会が新潟県の畜産振興に大きく貢献していることに謝意を述べ、当協会と会員の健勝を祈念して祝辞とした。

・議事録署名人の選任（2名）

- ・新潟県農業信用基金協会
専務理事 佐藤 俊彦 氏
- ・新潟県動物薬品器材協会
石田 司 氏

・提出議案

- 第1号議案 平成29年度事業報告及び収支決算報告について
- 第2号議案 役員改選について
- 第3号議案 公益社団法人新潟県畜産協定会費の一部変更について
- 第4号議案 平成30年度会費について
- 第5号議案 役員報酬の決定について
附帯決議

2 結果の概要

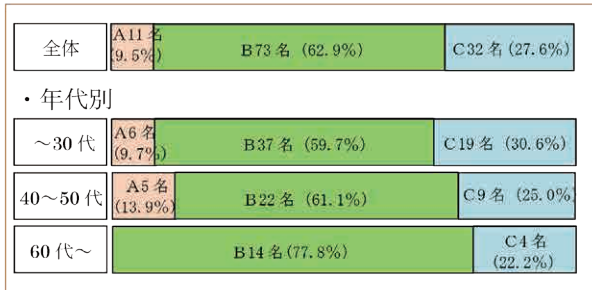
提出5議案と附帯決議は出席者全員の挙手と書面による全員の賛成で原案どおり成立し、報告事項も全員の了解を得た。なお、総会終了後に開催した理事会で会長、副会長（2名）及び専務理事を互選した。

【新役員】（理事11名、監事3名）

役名	氏名	備考
会長	今井 長 司	
代表理事副会長	五十嵐 正 美	
業務執行理事副会長	小林 則 幸	
専務理事	阿部 悟	
理事	荻野 博 明	
〃	桑原 隆	
〃	五十嵐 孝	
〃	小林 辰 一	
〃	石田 秀 史	
〃	石山 正 博	
〃	青木 克 明	
監事	鈴木 金 次	
〃	永井 充	新任
〃	渡邊 弘	

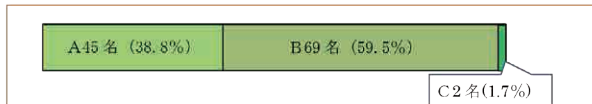
Q16 家畜のエサの国内自給率を高めるため、最近おコメ（飼料用米）を家畜に食べさせる取組みが全国的に行われておりますがご存じですか？

- Aよく知っている B聞いたことがある
C知らない・わからない



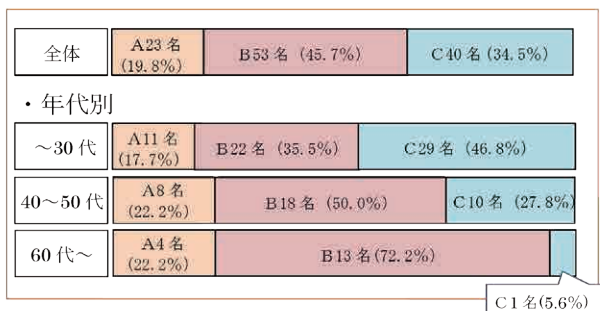
Q17 おコメを食べさせた家畜が生産した牛乳・肉・たまごを食べてみたいですか？

- A大いに食べてみたい B機会があれば食べてみたい
C食べたくない



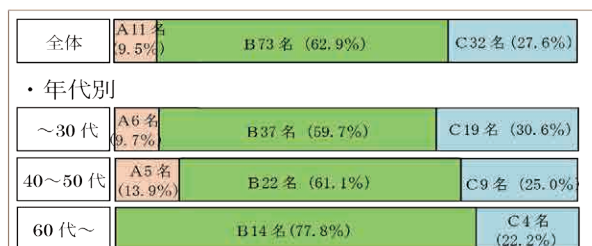
Q18 新潟県では安全な畜産物の生産を図るため、HACCPの考えに基づく衛生管理手法を農場に普及・定着する取組みを推進していますが関心をお持ちでしょうか？

- A大いに関心がある Bある程度関心がある
Cあまり関心がない D全く関心がない



Q19 畜産農家は、高齢化と担い手不足等により年々減少しています。仮に国内での畜産物の生産が需要（必要量）を下回る事態が起きた時どのようにすればよいと考えますか？

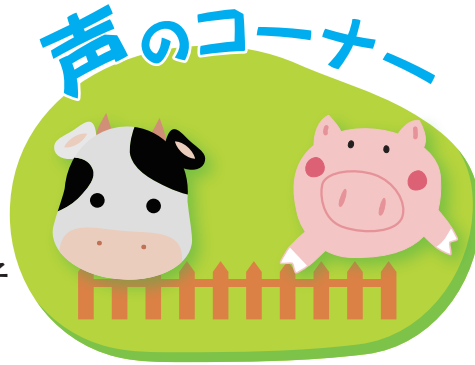
- A必要量を海外から調達 B需要を賄うことのできる国内生産基盤の強化 Cわからない





酪農経営

新発田市宮古木
波多野 隆子



養豚経営

村上市高根
相馬 はな



『子供たちと子牛』

私が夫の実家である新発田市に引越して6年が経ち、家業である酪農の仕事始めてから早5年目になります。

私の実家は非農家で、近所の畜産といえば和牛農家が一軒あってだけで、畜産に関わること、そして沢山の大きな牛を見ること全てが新鮮でした。

それから6年、3人の子供たちは小学生になり、長女と次女はよく手伝いをしに来てくれます。しかし、小学1年生の長男は、保育園の年少時、お昼のエサを食べている牛の目の前を全力疾走、驚いた牛たちがジャンプや威嚇をしたことから、怖がって牛舎に来なくなってしまいました。

最近こんなことがありました。

私にとっては馴染み深い曲の一つ「ドナドナ」。子供たちは私が口ずさむところしか聞いたことがないので、他のも聞いたり、動画も見てみたいとせがまれました。初めは「みんなのうた」のドナドナ、次にホルスタインの静止画像に合わせ「ドナドナ」の曲が流れる映像になりました。

すると、突然長男が大号泣、一向に泣き止まず心配していると「お母さん、なんで『コスモス』おうちで飼ってくれないの？ どうして市場に出しちゃったんだよ。」と長男に問われました。

私は、その時とてもうれしい気持ちになりました。牛が苦手だと思っていた長男から、牛に対して優しい言葉を聞けたからです。

『コスモス』というのは、以前、飼っていたホルスタインのオス子牛の名前です。私が、酪農を始めてから、一番初めにしたこと、それはすべての牛に名前を付けること、そして子牛については、子供達が名前を付けてくれていました。中でも長男が、オスの子牛の名前を付ける係でした。

正直、私が息子の年と同じくらいの頃には、何にも考えずこの歌を歌っていました。ほとんど牛舎に姿を見せない長男でしたが、動物の命に対する、優しい気持ちがあることを感じる事ができました。

今、私は若手酪農家たちで構成されている「ミルクファクトリー」の活動として、近所の小学校に子牛を連れて行き、子供たちにふれあってもらい、バターづくり体験も行っています。子供たちの中には、以前、牛を見たり、触ったりしたことがある子もいますが、それでも沢山の子供達が「あたたかい、かわいい」という言葉を聞かせてくれます。生きものに触れ、温もりを感じ、心音を聞いて「生きている」という事を感じ、また自分でバターを作ることにより、「食」に対して興味を持ち、生き物からの恵みに対する感謝の気持ちをもちながら、ご飯を食べてもらいたい。

そのことを、一人でも多くの子供たちに感じてもらえるように努力していきたいと思っています。

※ちなみに長男は市場＝「お肉にするところ」と思っていたようです。

『未知との遭遇』

大学を卒業してすぐに実家が養豚業を営む主人と結婚し3年が経ちます。まさか自分が新潟という地で養豚の世界に入ることになるとは夢にも思っていませんでした。

私は大学で犬や猫の愛玩動物について学んでいました。同じキャンパス内に畜産学科がありましたし、私の学科の授業で畜産の世界に触れることもありましたので、ごく普通の女の子に比べれば知識はあったと思います。しかし、いざその世界に入ってみると、想像していたよりももっと複雑で大変な仕事だということを実感しています。今は現場にはほとんど入らず事務所で経理や現場のデータ管理をしていますが、これから少しずつ現場に入っていき身としてこんなに大変そうな仕事を私はやっていけるのだろうかかと不安になることも多々あります。でも自分で決めて入った世界です。私にできることを精一杯やっとうと思っています。

大変な仕事だと思うと同時にやりがいのある仕事だとももちろんあります。農場の皆さんが苦勞して出荷した豚肉が地元のスーパーに並んでいることや、近所の方々に美味しかったと言っただけのことについていつも喜びを感じています。

また、娘は何が食べたいか聞くと必ずお肉と言うほど豚肉が大好きで、毎回美味しい美味しいと笑顔で食べてくれます。私自身も本当に美味しいと思っていますが、こうした地域の方々や家族の感想・笑顔は仕事への大きな励みになります。

この春まで娘の育児に追われて仕事をする時間があまり取れていませんでしたが、娘も保育園に通い始めたので現場での仕事をこれから覚えていきます。そして、今まで数字だけを見て行っていたデータ管理の質を向上させ、農場の更なるステップアップに貢献していきたいです。

「人」も「家畜」も夏バテ防止！！暑い夏を乗り切る秘訣

・・・それぞれの専門家から寄稿いただきました。・・・

① ひと編

夏バテ予防の食生活

新潟医療センター栄養科長

管理栄養士 吉田 涼子



気象庁の予報によると、今年の夏は、平年より気温が高く猛暑になるとのことです。蒸し暑い日が続くと疲労感やスタミナ不足を感じ、体調を崩しやすくなるかたも多いのではないのでしょうか？

人の体は、環境の変化に適応して一定の状態を保つ仕組みがあります。ところが暑い夏になると、この機能がうまく働かず、夏バテになってしまうことが多いのです。また、夏には大量の汗をかき、エネルギーの消費量も多くなります。汗には体温を調節する機能がありますが、汗とともに体に必要なビタミン（ビタミンB群やCなどの水溶性ビタミン）やミネラル（ナトリウム・カリウム・カルシウム・マグネシウム）などの栄養素も一緒に排泄されます。

栄養の面では、食欲が減退する夏は食事の回数や量が減ってしまうため、どうしても栄養不足になってしまう傾向があります。さらに、冷たい飲み物ががぶ飲みすると、その水分で胃液が薄められ、せっかく摂った食事も消化されにくくなり、栄養素も十分に吸収されなくなります。この悪循環により、栄養不足の状態が進み、夏バテになってしまいます。

さらに夏の時期は清涼飲料水やアイスクリーム・かき氷、果物などの甘いものを摂り過ぎてしまいがちです。また、さっぱりしたものが食べやすいこともあり、そうめんだけで済ませてしまう・・・なんてことも多くなります。これらの食品の主成分は糖質ですが、実は糖質をエネルギーに変えるには大量のビタミンB1消費されます。ビタミンB1が不足

すると、食欲がなくなったり、だるさや疲労を感じるようになります。

つまり、食事からの摂取不足と大量に汗をかくことの両方の点から不足しやすいものが、ビタミン（特にビタミンB1）とミネラルであり、夏バテにならないためには、これらをしっかりとることが大切なのです。

炭水化物の代謝を促すビタミンB1が多く含まれている食品は豚肉、うなぎ、玄米、大豆などです。特に豚肉は代表的な食品です。また、暑さによるストレスに打ち勝つにはビタミンCやミネラルも不可欠です。たんぱく質とビタミンCを合わせて摂取することによって免疫力が高まり、ミネラルの吸収もアップします。ビタミンCが豊富な野菜とビタミンB1を多く含むたんぱく質である豚肉の組み合わせは最強の夏バテ防止食品です。豚肉の冷しゃぶをきゅうりやレタス・トマトなどと一緒にゴマだれやポン酢で食べたり、夏野菜と豚ひき肉をたっぷり入れたキーマカレーなどのメニューもぜひお試しください。

但し、ビタミンB1もビタミンCも水溶性ビタミンであるため、体内に貯蔵されることが少なく、必要量以外の大部分は尿中に排泄されてしまいます。そのため毎日摂取する必要がある栄養素です。日々の疲労をため込まず、しっかり栄養バランスのとれた食事を心掛け、今年の夏は夏バテ知らずで過ごしましょう。



② 家畜編

家畜の暑熱対策について

中央家畜保健衛生所次長 内山 保彦

今年もいよいよ本格的な夏がやってきます。新潟地方気象台発表の北陸地方3か月予報では、気温が平年並みか高い見込みと予測されています。

今一度、暑熱対策の点検を行い、家畜ができるだけ快適に過ごせる環境を作り、生産性の低下を防ぎましょう。

環境の測定と家畜の観察

県内では、例年7月になると昼夜連続して気温が高くなる傾向にあります。また、全般に湿度が高く、細霧システムを使用する生産者は湿度が高い時間帯の利用を中止する等の対策が必要な日が多い傾向にあります。このため、家畜がいる環境温度と相対湿度をモニタリングした上で、暑熱対策を行うことが重要です。家畜では、温度と湿度から、温度湿度指数、熱量指数、暑熱指数などの指数を求め、段階的なストレス区分が決定されています。例として、牛

表1 暑熱ストレスのTHIによる区分 (牛)

ストレス区分	THI値	呼吸数(回/分)	直腸温
境界	68-71	60以上	38.5以上
軽度	72-79	75以上	39.0以上
中度	80-89	85以上	40.0以上
強度	90以上	120以上	41.0以上

$THI = \text{気温} \times 0.8 + 0.01 \times \text{湿度} \times (\text{気温} - 14.4) + 46.4$



ヒートストレスメーター
(エンペックス社)



マルチ環境測定器
(FUSO社)

で多く利用されている温度湿度指数 (THI) による暑熱ストレスの区分を表1に示しました。対策を実施しないと、境界域から産乳量の低下や採食量の減少が見られ、さらに増えると受胎率の低下等として現れます。県内では、5月ごろから軽度の値が現れ、7月には中度割合が増え、軽～中度の値が一日現れる傾向になり、昼夜送風等の対策が必要になります。

また、風速に応じた体感気温低下は、 $6 \times \sqrt{\text{風速 (m/秒)}}$ で示されます。最も暑い時期には、県内の一般的な牛舎では牛に当たる風を2m/秒に維持する必要があると考えられます。温湿度計、THIストレスメーター、風速計 (左下写真) 等が手頃な価格で販売されていますので、活用してみてください。

暑熱対策

これからでも、できそうな暑熱対策をまとめました。対策を組み合わせるとより効果的です。家畜を観察し、発するシグナル (暑熱の場合は、呼吸数の観察が大切) に注意し、暑熱ストレスの少ない飼養管理を行い、夏を乗り切りましょう。

1 共通事項

- (1) 飼養環境の温度上昇を防止する対策
直射日光を防ぐため寒冷紗・遮光ネットの設置、屋根に消石灰塗布や散水、送風・換気装置の清掃や角度風向調整、送風ダクト吹き出し口等の調整、窓の開放、風の遮蔽物の除去等
- (2) 水の確保
新鮮で低温かつ十分な飲水の確保、飲みやすい飲水器と設置場所等
- (3) 管理作業により体温を上昇させない対策
1日でも最も暑熱ストレスを受けている時間帯での作業や給餌時間の変更等

2 家畜別の対策

- 牛：毛刈り、アシドーシス予防 (多回給与、粗飼料変更や切断長短縮)、ビタミン・ミネラル補給等
- 豚：ドリップクーリング、母豚群の飼料変更等
- 鶏：鶏群の栄養管理 (アミノ酸、Ca、Na、P等の飼料設計変更)、点灯プログラムの変更等

畜産安心ブランド生産農場だより

新潟市南区：(有)キープクリーン代表 小嶋 力也

当農場は新潟市南区にある。養豚場（有）キープクリーンです。

養豚を主に産業廃棄物の収集運搬、直売所をメインに食肉処理業を行っております。

従業員はパート含め15名程います。

自農場は一貫経営で他農場との違いは、子豚～母豚まで全ての餌を自社で配合、給餌しております。さらに肉豚への給餌方法は飼料を水に溶き、液体で給餌するリキッドフィーディングというシステムを採用しております。

昨年は畜産クラスター事業を活用させていただき、豚舎を増築しました。

現在は増築した分娩舎とストール舎をフル活用すべく母豚を増頭中で、施設が新しくなった事で、作業性も良くなり生産成績も順調に上がってきています。

目標としては350頭の母豚で年間肉豚出荷10,000頭を達成できるよう頑張りたいと思っています。

お肉の直売は、始めた当初は何も分からず相当悩まされましたが、スタートから3年が経過した今では少しずつではありますが軌道にのってきました。お客さんからも「おいしい」「やわらかい」などうれしい声も聞こえるようになりました。



これからも、そう言った声を励みにし、昨年認定頂いたクリーンポーク含め、安全安心な豚肉を安定生産、販売していきたいと思っております。

「上越家畜市場」最後の子牛セリ市

去る6月26日、JA全農新潟県本部主催の6月素牛市場が「上越家畜市場」で開催された。

今回の市場開催をもって上越家畜市場は廃止され、次の開催となる9月市場からは長岡市上前島の「新潟県中央家畜市場」に場所を移して、引続きJA全農新潟県本部が市場運営を行うとのこと。

上越家畜市場は、昭和58年春に上越地域にあった5か所の家畜市場を統合し、現在地に新築移転したもので、満35年間の長きにわたり和牛肥育素牛の取引を行い、県内外の購買者で活況を呈した。

JA全農新潟県本部（畜産部）によると、上場頭数が緩やかに減少しており、施設・機器が老朽化するなか、今後の市場運営を見直す必要があったとのこと。また、最近では下越・中越地域からの上場頭数のウエイトが高まり、より交通の便が良い県中央家畜市場での開催を望む声があったことや、購買者が参集し易くなることで、より活発な市場取引が期待できる等の理由で開催場所の変更を決定したとのこと。

最後の市場となった開催当日に取引を真剣に見つめる2人の生産者の方に話を聞くことが出来た。

○SIさん（上越市三和区）

市場開催日にはトラクタにトレーラーをけん引して、市場まで子牛を運んできて上場してもらった。今日は、雌1頭を積んで来た。自分で運搬するのは今日が最後だ。

○YWさん（上越市浦川原区）

この市場が出来た頃に牛飼（繁殖）を始めた。今までは自宅からこの市場まで片道30分弱で来たが、9月からは1時間半かかる。上越地域からの上場頭数が減っているから仕方ない。

編集後記

毎年のことですが、今頃話題となる話が「梅雨末期の大雨が降るのかどうか」「猛暑か冷夏か」「台風はどうか」気象予報士なる諸氏が理屈を並べたて、テレビ等で議論を展開しています。当たってもハズレでも責任が無いからいい商売だと思えます。農家はお天気商売。「コメ」・「野菜」・「果樹」は気象の良し悪しが出来・不出来を大きく左右しますが、「畜産」は事前の対策で相当軽減できます。

これからが暑さ本番、暑熱対策は完璧でしょうか？暑熱による被害を最小限に食い止めると共に、慢性疾病による生産性の低下を軽減し、経営の安定を加速して行きましょう。
(鈴木 記)